６／30（月）の発表

報道発表資料の配付日時　６月 30 日（月）10 時 00 分

発表項目（行事名）	第 47 回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」の入賞者の決定について
概　　要	**ポイント** ■ **応募総数 127 編のうち、空知管内から優秀賞１編と入選３編が選出されました** 1　**空知管内コンクール受賞者等**（敬称略） 応募総数 127 編を審査の結果、次のとおり決定しました。

	作品名	氏名	学校名・学年
優秀賞	ダムが支える かけがえのない水	羽川　莉子	砂川市立砂川中学校　３年
入選	水の環境を 守ることから	鈴木　嶺我	栗山町立栗山中学校　３年
入選	当たり前ではない	平　萌希	岩見沢市立北村中学校　３年
入選	水への危機感	山本　香里奈	岩見沢市立北村中学校　３年

2　**表彰について**

「北海道知事」名で賞状及び副賞を贈呈します。

個人賞（最優秀賞、優秀賞及び入選）は、所属中学校を通して本人に伝達することとしております。

伝達行事の実施等は、学校にお問い合わせください。

※個人賞の賞状及び副賞は本日、総合政策部計画局土地水対策課から各中学校あて発送。

3　**中央審査について**

入賞作分の中から４作品を全日本中学生水の作文コンクール中央審査の対象として国土交通省に推薦しています。

中央審査において受賞した際は、改めて、受賞内容等を発表します。

参　　考	・入賞者一覧・・・・・・・・・・・・・・資料１ ・中央審査推薦作文（４作品）・・・・・資料２ ・北海道地方コンクールの概要・・・・・資料３ ※実施要領等の詳細は土地水対策課 HP を御覧ください。 （ＵＲＬ：https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/stt/mizunohi/sakubun.html）
報道(取材)に当たってのお願い	記事掲載にあたっては、作文の電子データの提供も可能です。
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク ※道政記者クラブ、石狩振興局記者クラブ、渡島総合振興局記者クラブ、留萌振興局記者クラブ、オホーツク総合振興局記者クラブ
担　　当（連絡先）	空知総合振興局地域創生部地域政策課　　（担当者：今中） ＴＥＬ　ダイヤルイン　０１２６－２０－００３０

資料１

第 47 回「全日本中学生水の作文・北海道地方コンクール」入賞者一覧

最優秀賞

作　品　名	氏　名	学校名及び学年	管　内
身近なことから世界に向けて	九島　希奈	北海道教育大学附属函館中学校　３年	渡島　※

（敬称略）

優秀賞

作　品　名	氏　名	学校名及び学年	管　内
ダムが支えるかけがえのない水	羽川　莉子	砂川市立砂川中学校　３年	空知　※

（敬称略）

入　選

作　品　名	氏　名	学校名及び学年	管　内
水と生きる	楠原　瑛太	旭川市立東鷹栖中学校　２年	上川　※
水のつながり	後藤　せり	千歳市立青葉中学校　２年	石狩　※
水の環境を守ることから	鈴木　嶺我	栗山町立栗山中学校　３年	空知
当たり前ではない	平　萌希	岩見沢市立北村中学校　３年	空知
水への危機感	山本　香里奈	岩見沢市立北村中学校　３年	空知

（敬称略、五十音順）

※は中央審査に推薦

学校賞

学　校　名	管　内
旭川市立東鷹栖中学校	上川
北見市立相内中学校	オホーツク
千歳市立青葉中学校	石狩
羽幌町立焼尻中学校	留萌

（敬称略、五十音順）

資料2

【最優秀賞】

身近なことから世界に向けて

北海道教育大学附属函館中学校　三年　九島　希奈

私は水を無駄遣いしていた。それに気づいたのはつい最近の母の「この水、どのくらいきれいなのかわかっているの。」という一言がきっかけだった。普段何気なく飲んだり、使ったりしている水のきれいさなんて考えたことがなかった。それどころか、日本や世界の水問題について知らず、特に何も考えずに過ごしていた私は、水が人間にとってどれだけ大切なものなのかということを一日でも早く理解しておくべきだったと後悔している。

私には、毎朝顔を洗い、麦茶を飲み、朝ご飯を食べ、歯を磨いてから学校に行くというルーティーンがある。この一連の動作では、終始水道から出た透明なきれいな水を使っている。学校生活の中でも、家から持って行く水筒、手洗い場、トイレなど様々な場面で透明な水を使用している。むしろ濁っている水など普段の生活では目にしない。夜にはお風呂に入る。人間が一日の中で一番水を使う場面であるが、もちろん濁っていないきれいな水である。私の家では水を多く使う場面が他にもある。お風呂はもちろん、トイレ、食洗機、洗濯機など一度に大量に使うことができる。私はこんな一日が「あたりまえ」だと勝手に思っていた。

しかし、この「あたりまえ」に変化が訪れた。ある日、家の水道から出た水が少し濁っていた。私はそれを不自然に思い、使用するのをやめ、ペットボトルの水を飲むことにした。あとから母にこの出来事についてその時の写真とともに話してみると予想外の反応が返ってきた。「全然飲める透明度。この水、どのくらいきれいなのかわかっているの。」と。母の返事に納得がいかず、世界中の水について調べてみたところ、私の見た水なんて、まったく比べ物にならないほど世界には不衛生な水を生活に使用している国があることがわかった。

この世界に住む十人に三人は安全な水を使用することができず、動物の糞尿やウイルスなどが混じっている危険な水を使用している。その理由の一つとして「世界における水の使用量増加」があげられる。主に農業などに水が使われるため、生活用水や飲料水が不足しているのだ。そのため、生活で使用せざるを得ない不衛生な水が原因で命を落とす子どもが毎日七〇〇人にものぼっている。下水道設備が整っていないことや石鹸を使った手洗いができないことによって不衛生な環境となり、特に抵抗力の弱い小さな子供にはこの水問題は深刻だ。

もっと身近なものであれば、衣料品がその一つだ。様々な色や模様があり、毎日のように着ている。だがたった一枚のコットン製のＴシャツを作るために必要な水の量は、二七二〇リットル。ひとりの人間が三年かけて飲む水の量に値する。それに、衣類の染色などで生じる廃水は世界中の廃水のおよそ二〇パーセントを占め、水質汚染にもつながっている。

普段からきれいな水が水道から供給されるため、水不足に困ることの少ない日本に住む私。何も考えずにきれいな大量の水を普段から使ってしまっていた。その無駄遣いの積み重ねが世界中の水不足の加速につながっているのかもしれない。そう気づくことができたからこそ私は自分の行動のひとつひとつを大切にしようと決意した。

そのために私は家庭や学校生活、地域などを通して今から行動することができると思っている。洗い物などで水を出しっぱなしにしない、お風呂の水の再利用、それに衣服を無駄に買わないことが今の自分にもできることだと思う。小さなことからでも良いから、日々積み重ねていけばいつか地球のためになってくれる。そう考えながらこれからを生きていきたい。

資料2

【優秀賞】

ダムが支えるかけがえのない水

砂川市立砂川中学校　三年　羽川　莉子

夏休みも終わりに近づいていたある日、私は新桂沢ダムの管理支所長になった。というのも、昨年度、入賞した作文の副賞の一日管理支所長だ。この新桂沢ダムは、桂沢ダムが治水・利水の機能を満足にできなかったため、嵩上げし、貯水量を増やして令和六年三月に完成したばかりのものだ。

管理支所長になって最初に、担当の方に新桂沢ダムの役割について教えてもらった。

まず、当たり前のように使っている水道水、広大な農地を潤すための農業用水、北海道を代表する石狩湾新港の工場に供給するための工業用水。これらは全てダムで確保されている。ダムは私たちの暮らしに潤いをもたらし、工業の発展を支えているのだ。

また、ダムには私たちや水辺の生物の暮らしを守る役割もある。新桂沢ダムの下流にある幾春別川流域では、かつて、大雨によって、何度も何度も洪水の被害を受け、多くの尊い命を失ってきた。そうした被害をできるだけ軽減することや、雨が少ないと川に水が流れなくなり水辺の生態系が崩れることを防ぐためにダムで流量を調整している。そのおかげで、私たちの安全な毎日が守られているのだ。

実際に所長として、監査廊の点検へ向かった。監査廊の入口の戸を開けると驚いてしまった。なぜなら、監査廊は長くて急な階段の下にあり、外の暑さでは想像できないほど、寒かったからだ。壁を隔ててすぐそこに数千万立方メートルにもおよぶダムの水を感じた。そして、壁や漏水量を点検し、ダムに異常がないか確認した。

その後、ダム湖の水質調査と巡視へ向かった。職員の方と一緒のボートに乗せてもらい、ダムの嵩上げの境目と、ダム湖の水を保全するための仕事を間近で見ることができた。水を守るためにダムに携わる人たちが苦労を重ね、工夫を凝らしていたことに気づけた。

一日の仕事を終えた私は、ダムに携わる人たちのダムや水に対しての熱意に刺激を受けて、ダムと私たちと水の関係について考えた。

ダムの管理支所長をやってみて、ダムは富栄養化という大きな問題を抱えていることがわかった。富栄養化とは、生活排水や工場排水などで栄養塩濃度が高まり、植物プランクトンが増えて水が汚れることだ。富栄養化が進むと水道水や農業用水に悪影響が出てしまう。だが、ダムに携わる人だけでは、この問題は解決できない。だから利用する私たちが協力してダムの水をきれいにする必要がある。

水は有限で貴重なもの。私たちは、水を守るための行動をとるべきだ。例えば、環境に優しい洗剤を使ったり、排水溝に油汚れを流さないようにすることで、水を守ると同時に、先程述べた富栄養化を防ぐことにも繋がる。

限りある水を守るために、先人たちの努力を受け継ぎ、私たちが次の世代へと繋げていく必要があるのだと思う。新桂沢ダムには、ダムに興味を持って学びに来ていた小学生の感想が監査廊にたくさん貼られていた。その小学生のように私たちも、ダムや水の現状を理解し、伝えていくことが大切だ。

私は、ごみ拾いボランティアや学校の授業で水循環について調べたりしている。小さな取り組みかもしれないけれど、いつか大きな結果に繋がると信じ、継続している。

水は、私たちが住んでいる地球の基盤だ。水があることによって、川や山、木などの自然が成り立っている。全部、水によって繋がっているのだ。私たち生物が生きていくうえで欠かせない恵みを、水は与えてくれている。

おいしい農作物が食べられること、水道からきれいな水が出てくること。全て当たり前と思わず、水への感謝を常に持ち続けて、水の恩恵を最大限に活かしていきたい。この大きく豊かな自然に溢れた北海道で、ダムに支えられている水の恩恵を肌で感じながらそう強く思った。

資料2

【入選】

水と生きる

旭川市立東鷹栖中学校　二年　楠原　瑛太

みなさんは日常生活を送る上で水が使用できなく、困った経験はありますか。私は生まれてから一度もそのような経験はありません。しかし自然災害によってライフラインの停止が起こると私達の生活は一変します。

昨年発生した能登半島地震、同年に発生した能登半島豪雨により多くの人々の日常生活が奪われました。その中でも水道管の損傷により多くの地域で断水が発生し、料理やトイレ、洗濯などで水が使用できなくなりました。私がその立場に置かれた場合、なにをすべきか考えてみました。例えばトイレで流す水の量を減らしたり、洗濯の回数や洗剤の量を減らしたり、料理をする際は食器にビニール袋などをかけたりして洗い物を減らすことにより節水できるのではないかと考えました。

私の父は今から約十四年前に発生した東日本大震災の災害派遣に参加しており、当時の状況を聞くことができました。被災地での状況は地震や津波により家屋が倒壊し、道路も瓦礫で溢れており復興活動の妨げとなっていました。そんな中被災地での入浴はできないため、一週間に一回体を洗ったり、体を汗拭きシートなどで拭いたりするそうです。また、食事は水を使わない缶詰がほとんどだそうです。災害派遣の人でこのような状況なので実際に被災した人々はもっとひどい状況で期間も長く、苦しい思いをしていたと思います。今までそのような経験をしたことがなかったのでこの話を聞いたときはとても信じることはできませんでした。

ほとんどの人がこういう災害を経験していないのではないでしょうか。真剣に水を大切だと思っている人も少ないはずです。なのでみなさん一人一人が水が大切だという意識が必要です。「大切」というためには普段使っている水の使用量を少なくすることが重要です。私たちができることは洗面の際に水を出しっぱなしにしないことや入浴中のシャワーの使用量を控えるということがあります。まだまだほかにもたくさん節水するためにできることはあると思います。そうすることで水への愛着が深くなり、大切と思うことができるのではないでしょうか。

水は私たちの恵みの存在です。しかし豪雨や津波など災いの面もあります。そのため私たちは水の恵みに感謝すると同時に、水の怖さについても理解し、備えることが大切だと思います。日頃から節水を心がけたり、防災意識を高めたりすることで水とよりよい関係を築いていきたいです。

資料2

【入選】

水のつながり

千歳市立青葉中学校　二年　後藤　せり

皆さんは水といえば何を思い浮かべるだろうか。私が水と言われてすぐに思いつくのは、川と湖だ。なぜなら、私が住む街は、名水百選に選ばれるほど、川や湖の水がきれいだからだ。

私は一歳の頃から今の街に住んでいる。そのころから、近くには川があった。その川とは、千歳川だ。そんな川の近くにある小学校では、総合的な学習の時間にその川についての授業を受けることがあった。その授業では、千歳川の水が名水百選に選ばれていること、その水はどのようにしてきれいになっているかなどを学んだ。そのときに、川などの水は薬品を使ってきれいにされていることを知った。私は薬品を使っている水なんて使いたくないな、と思ってしまった。しかし、千歳川の水はほとんどそれを使わずにきれいにしていると学んだ。それを聞き、それなら安心して水を使えると思った。そして、薬品をほとんど使っていないのも、きっと名水百選に選ばれる理由だろうとも思った。

この話の途中で、私はこの川の水はどこから来ているんだろう？と疑問に感じたので調べてみることにした。すると、川の水は支笏湖という湖からきているとわかった。支笏湖は千歳市にある湖で、環境省の公共用水域水質測定結果というもので過去二十回も全国一位に輝いている。それは、水中の栄養分が少なく、プランクトンの発生も少ないことから透明度が非常に高いなどの理由らしい。そんな支笏湖からきている水だからこそ、千歳川も透き通っていて、薬品を使わずにこんなにきれいにすることができるんだと感じ、同時に川と湖のつながりはすごいとも感じた。

水質がよくて薬品の量も少ないと、生息している生き物も多い。その中には共通して生息している生き物もいる。例えば、支笏湖にはアメマス、カジカ、エゾサンショウウオなどが生息している。千歳川には鮭、サクラマス、ウグイ、アメマスなどの魚類や、白鳥などの渡り鳥が生息している。この中では、アメマスが湖と川に共通して生息している生き物だ。いろいろな生き物をあげてみたが、中でも鮭は有名だ。秋頃になると、橋の上から透明な水が波立って白く濁っているのが見える。これは鮭が遡上してきているから、そのように見えるのだ。

そんなたくさんの生き物やきれいな水を大切にし、守っていくために私達ができることはなんだろうかとふと思い、考えてみた。例えば、水を使いすぎないで、節水する、川などにポイ捨てをしない、油や石鹸などを直接流さないなどのいくつかの方法を考えた。これらはすべて大切なことだと思うが、私が一番大切だと考えるのはこれらのことではない。私が最も大切だと考えるもの。それは、一人ひとりの努力だ。誰か一人だけがこれらのことをやっていても、ほとんど意味はなくなってしまう。しかし、その行動や努力が二人、五人、十人と増えていくことでもっと水が守られていくのだ。

水は、とても貴重で大切なものだ。水がないと人を含めたどんな生き物も生きていけない。湖や川の水辺に生息している生き物もたくさんいる。そんな水がある場所を保護するために、私は、私達は、たくさんのことができる。その内の一つとして、一人ひとりの志が大切というものがある。だが、最初からみんながそうするのは難しい。なので、まずは私がしっかり水について考え、それを守るための行動を自ら起こしていきたいと思う。

資料３

全日本中学生 水の作文・北海道地方コンクールの概要

■目的

「水の週間（８月１日～７日）」の行事の一環として国が実施する「全日本中学生水の作文コンクール」と連携し、北海道においても次代を担う中学生を対象に「北海道地方コンクール」を実施し、広く水に対する関心を高め理解を深めることを目的

■北海道地方コンクール

〇全日本中学生水の作文コンクール(中央審査：水循環政策対策本部、国交省主催）への推薦にあわせ、北海道地方コンクールとして道が選考した作品を昭和54年から表彰

〇令和７年度の概要

・応募　８校、作品１２７編

・最優秀賞１編、優秀賞１編、入選５編、学校賞４校を選出

※上位作品を中央審査に推薦

■今後のスケジュール（予定）

R7. 7　全国コンクール入賞作品決定（中旬）・報道発表（下旬）

R7. 8　全国コンクール入賞者表彰式（水の日 8/1（予定)、東京都）